

---

# **仮面ライダーW × ディケイド ~平成オールライダー v s 大ショッカー**

城戸 智

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダーW×デイケイド→平成オールライダーVS大ショッカー

### 【Zコード】

N4549Q

### 【作者名】

城戸 智

### 【あらすじ】

「ここ風都、風都タワーが風車みたいに回っていて、綺麗なところ・・・」

この前、仮面ライダーデイケイドの士が来た時から、事件が多発、その真相突き止めようとして、フイリップで検索すると「士が仲間を集めている」という情報が入ってきた・・・なので、翔太郎とフイリップは、士の世界に行く事に・・・

ディケイドの世界に言った、翔太郎とフイリップは、士になんて仲

間を集めていいるのかと聞き、その真相は「ショッカー」が を作つて いるという事だつたので、違う仮面ライダーの助けを求めるべく、クウガの世界・アギトの世界・龍騎の世界を歩き回り、仲間を集めていき、ショッカーを、みんなで倒すそれが、この物語のしゅ しんなのだ

「たまごの世界（前書き）」

みなさまへお願ひします。

## 「」は、wの世界

「」風都では、「」の「」おかしこうが次々と起るのであった。・  
・・・・・

この前、士が来た時から、なぜか起つはじめたのであつた。！

翔太郎「フィリップ、気になる事があるから、調べてくれないか  
？」

フィリップは、静かにうなずく

翔太郎「キーワードは、『門矢 士』」

フィリップ「もう一つキーワードを」

・・・・・・・・

翔太郎「次のキーワードは、『風都』」

フィリップ「bingoだ」

フィリップが、キーワードに適した本を読んでいた。

翔太郎「フィリップ？？？」

・・・・・・・・

フィリップ「士たちが、仲間を集めているらしい、なにかと士が

戦うところの世界にも影響が出るらしい」

つてか、何で仲間を集めているんだ？？？

もしや何かの前兆？？？世界の滅亡だつたりして・・・・・・・・！  
地球が割れるとか？？？ドーパントが5億体も出現とか？ショック力  
ーが、人間に変身して、人を襲っているとか？まあ、そんな事はな  
いとして・・・・（多分）

フィリップにそうこうことを言つと、検索バカさが出てしまうか  
らな・・・・・・

翔太郎「ディケイドの世界に行つて土に聞いてみるか？？？」

フィリップ「それが、1番いい方法だと思うが・・・・」

思つてゐるよりも行動する！！！

行くぞ！！！

フィリップ「翔太郎！ちょっと僕テレパシーとかが、使えないか  
ら・・・・」

！？

・・・・・・・・・・・・

つてか、何で分かったんだ？？？テレパシーが、使えないって言つ  
ていたくせに

だいたい、翔太郎は「行くぞ！相棒」・「行くぞ」という時に、左

手を上げて人差し指で、空を指すから分かりやすいそれだけの事だ。  
・・・観察力は、僕のほうが上だな

翔太郎「フイリップーついいか????」

フイリップは、ゆっくりとうなずく

翔太郎「で、ディケイドの世界には、どうやって行けばいいんだ  
??」

そんな事も分からなか??じゃあどうして、知っているみたい  
に「行くぞ」っていう合図を僕に出したんだ??それが理  
解不能だが、翔太郎の事だし、まあいとしようか

フイリップ「もう言つてしまつが、多分もつちよつとしたら、仮  
面ライダーの世界と仮面ライダーの世界を区切る境界線が、現れる  
はずだ・・・その境界線を越えて、ディケイドの世界に行こうか  
!!」

翔太郎はうなずいていた・・・

0分後・・・

翔太郎「フイリップ!!!!!!で・・・・・・いつ現れるんだよ!  
!!その境界線とやらは・・・寝ててしまつぞ」

偉そうな口を利くな、印象が悪くなってしまつだろ

フイリップ「もう1回調べてみるから、待っていてよ翔太郎」

！？

翔太郎「キーワードは、『仮面ライダー』の世界の境界線』、次のキー  
ワードは、『その境界線が出る時間』」

フィリップは、ビンゴといいたそうな、顔をしていた

フィリップ「あと、17分後だ……ちょっと検索方法を聞  
違つてしまつたらしい」

！？

フィリップでもそんな事があるのか……違う事に気をとられ  
ているとそういうことがたまにある、そのことは、今までに3～5  
回あるだから、分かりきっていることなのだ

翔太郎「1回事務所に帰るつい、亜樹子にばれないようにな、ばれ  
たら、大変な事になつてしまふから」

yes！……とでも言いたそうにしていたフィリップであった……

UIUIは、Wの世界（後書き）

多分2日に1話ぐらしの更新スピードなので、了承ください

## ディケイドの世界へ

「 フィリップ 「あと少しで、この事務所のところに境界線が現れるはず……だ」

・・・自信があまりないな・・・

約10分後・・・

「 フィリップ 「現れた！！！あの、シルバー色の壁みたいなのが境界線だ」

なんか。アニメか、小説の中の話みたいだな・・・でも、これも小説の中の話か、・・・俺は、そんな事いう資格はないか・・・

・  
「 フィリップ 「壁の向こう側に行け」

といい、フィリップを先頭に、士の世界＝仮面ライダー＝ディケイドの世界へといったのであった・・・

ディケイドの世界・・・

夏美「士くん！――！何で、仮面ライダーの仲間を集めているんですか？？？」

・・・・・・・

夏美「士くん！――！私にも言えないことなんですか？？」で

も、教えてください」

士「まあ、そんなことだ！」

ガクツ！――！

夏美「もう知りませんからね――――――」

えつ！――！

士「えつとだな――」

トントン

助かつた、この俺を助けてくれた、救世主はだあれだ?????

フィリップ「よつ――――――士」

まさかの、フィリップ！

翔太郎「はるー！士！夏美ちゃん、ユウスケ」

・・・・・・・・・・・・

士「なんで、俺の世界に来たんだ??」

！――！

フィリップ「まあ、士――大体お前のせいだからな」

何で？？俺？

士「まあ、いい！俺、仮面ライダーの仲間を集めているんだ！！！  
！フィリップと翔太郎も、仲間に入らないか？」

これは、さそいなのか？？

士「さあてどうする？」

士が、悪魔に見えてきた

フィリップ「もしや、大ショッカーが、軍団を作っているとか・・・」

あつたり～～

士「まあ、一応正解だ！！！」

まあ、フィリップには、地球の本棚があるし、普通に分かるか・・・

・・

士「まだ、他の平成仮面ライダーのみんなに声をかけていないんだ！！！だから、今から他の仮面ライダーの世界に行くんだが・・・  
・・・・！――、フィリップと翔太郎たちも一緒に行くか？？」

？」

・・・・俺達も行くのか？？

何故、僕は行かなくてもいいでしょ

夏美「私は、ついてこきまよ」

でも・・・・・・・・・・・・

！？

フイリップ「じゃあ、夏美ちゃんがいるんだよな・・・・だつたら、変身中に僕の体よろしく頼むよ」

おお、やうこり手があったのか

土「なら、早く行くぞ――・まずカブトの世界だ――・」

！？

カブトの世界・・・・!

士「やつと、着いたようだな」

「フイリップ」「ところで、天道総司は？」

いな  
い！

翔太郎「天道さんの家ってドコなんだ?????」

多分、誰も知らないと思うが・・・

夏美「私知っていますよー！」

ガクツ！

マジで、知っているのかい！

夏美「私、前、カブトの世界へ行つたときに、天道さんに、住所教えてもらつたんですけつてか、年賀状も出しました！」

その年賀状いらぬから

じゃあこれで、天道さんの家にいける！

で、ド「なんだ？」

土「寝て待てば、どうからか来るだろ」

・・・・・・・・・・・・

その考え方やめようか・・・

フィリップ「家に行って、いなくとも、そこで待っていたほうが、一番簡単だが・・・」

その方法がよさそうだな・・

土「夏美！住所を教えてくれ」

嫌です

夏美「土くんには、教えたくありません！――！フィリップくん！行き方を検索してみてください――！」

分かった・・でも・・・

フィリップ「キーワードを」

えつと

夏美「〒　　――　　×　　×  
て下さい」　　　　　　×  
　　　　　　　　　　と入力してみ

なんか、夢のような住所だな

翔太郎「どうだ？フィリップ道順は、分かったか？？」

「クニヒヅナズく

フィリップ「僕についてくれば、総司の家に着けるはずだ」

『はずだ』と着く時は、なにかとフィリップは、間違えるはずだから・・・・・・一応心配なんだよな

まあ、一緒に行ってみるとするか・・・・・・

な！――信じてみるとするか・・・・・・

## 総司の心に響く

総司の家・・・・・

夏美『前に来た時は、違う家ですけど、新築でもしたのですか?  
? ?』

えつ?

違うの? ? ? ?

翔太郎『やつちやつたな／＼＼＼＼＼＼＼＼＼＼ フィリップ』

はああ～～～どうするんだよーー!

フィリップ『もう一度検索してみる・・・・・今度は絶対に大丈  
夫だ』

意地つ張りだつだけ? フィリップって

翔太郎『キーワードは「天道 総司の家」』

『次のキーワードは「夏美ちゃんが言つていた、住所」』

! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ?

フィリップ『総司の家は、向かい側だ! ! !』

ガクツ ! ! !

それなら、そつと早く見つけてくれればよかつたのに……。  
でも、表札みれば、よかつたかも知れない

翔太郎『『天道』つていう表札があつたかよーほらここに』

士『…………』

「うううときこ、ブレイドの世界の辰巳シンジが、自分の事を『  
チーズ』と呼ぶんでもいるのを思い出しちゃう士…………

ユウスケ『…………』

夏美『士くん！妄想しないでください』

おい！！！お前にこそ、妄想していいのか？俺は、昔の事を思い出  
していただけだ・・

士『まあいい！』チーズ』といつ言葉が、懐かしい気がする』

チーズ？食べ物のことか？もしや

あっ！……あれか～～～～～～～～

ユウスケ『シンジが言つていた、『チーズ』』

おいおいユウスケちょっと待て、あの『チーズ』はシンジだから、  
許してやつたんだ、だが、ユウスケは許さないぞ

夏美『で、翔太郎くんたちが、見当たらぬんですけど・・・』

ガチャ

翔太郎『よつ！－！士！何で、総司の家の前で、立ち話しているんだ？』

それは、置いといて・・・・・

つてか、総司の家の中に行っていたんかい！－！－！

フィリップ『総司いたよ！士行つてくれば？』

それも、そうだな

ガチャ

士『勝手に上がるぞ！』

！？

総司『士どうしたんだ？また、この世界へきたのかい？』

士『ショッカー＝敵が、大軍を作っているらしい…』

！？！？！？！？！？！？

翔太郎『協力してくれないか？総司・・・・・罪のない民間人が殺されても良いって言うのかよ！－！－！1人でも、仮面ライダーがいたら、民間人がすこしでも、守れるんだぞ！－！』

翔太郎の熱がこもるな

・・・・・

総司『でも・・・・・・・』

フィリップ『君が居ない間は、その他の仮面ライダーが守るんじ  
やないの？それに、君がよければ、デンライナーにのって、時間を  
戻してもらつたらどうだい？』

それもそうだな

総司『分かつた！…！協力しよう……』

よし！…！

こうして、仮面ライダー「カブト」「天道」総司が大ショックカー軍団  
を倒すため、立ち上がったのであった。（民間人を守るためにも）

## キバの世界へGOー！

土『次は、仮面ライダー・キバの世界へ行こうと思つ』

！？

ユウスケ『次は、キバ？ 龍騎じゃなくて？？』

ユウスケは、どんなことを想像していたんだ？？

夏美『つてことは、紅 渡くんのいる世界ですね』

もしや・・・・

翔太郎『夏美ちゃん総司のやつも知つていたようだ、渡のも知つ  
ているわけ？』

・・・・

夏美『はい！！！年賀状も出しましたよ』

やつぱり、知つていた・・・しかも、年賀状までも

フィリップ『検索準備が、整つたよー』

もう、準備しているんかい

夏美『では、住所いいますよ

？？ー？

ー？

で

す

七言一ノ

翔太郎『キーワードは、  
？？ー？　　ー？』  
　　>で、最後のキーワードは「道」』  
　　>で、最後のキーワードは「道」』  
　　>で、最後のキーワードは「道」』

えつとく道順出たのか？

『フィリップ！？えりと、『ENTK』という本に書いてある』

「ヤシジトモの『正テク』を本を読んでいた……

フィリップ『目の前のあの古い大きな家だ』

! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ? ! ?

・・・・・早くないか?家見つけるの』

翔太郎・夏美・それは  
おじとけよ(どいで)

同じ事言つていゐし

卷之三

セ、き通ったハイケか?????

士「面倒なんだが、で、どうするんだ？」

翔太郎『行け！渡を探して来い！！！！』

おっ！！！翔太郎クワガタ型の奴を使つたんだな・・・・

士『めんどくさい・・・・まあ、なんとかなるだろ！！！！この  
様子じや、寝て待てば、良いんじやないのか？』

ブロロンブロロン・・・・・・

！？！？！？！？！

渡『翔太郎！なんだ？？このクワガタ～～俺は、カブトムシの  
ほうが好きなんだけどな～～』

今は、そんな事聞いているんじゃない！！！

士『バカにも、ほどがあるぞ！渡！！！！じゃあ、そのことを許  
してやるから、俺の願いを聞けよな！』

何だ？

## 一応、人物紹介！

一応、人物紹介、これから出る人の紹介もします

左 翔太郎

ジョーカー・メタル・トリガー・メモリを持つ

仮面ライダー W

ボディサイド

フィリップ

サイクロン・ヒート・ルナ・ファングメモリを持つ

門矢 士

世界の破壊者と呼ばれる人物だが、心は優しく、正義に燃えている？

仮面ライダー・ディケイド

光 夏美

士が、いすわっている写真館の主人の孫、光家秘伝の笑いのツボで、士や、ユウスケなどを笑わせるのだ

仮面ライダー・キバーラ

小野寺 ユウスケ

士のシンデレ系ちは違い、お人好しで、それだけが、とりえと言  
われている

### 仮面ライダークウガ

天道 総司

超といつてもいいほど、マイペースで、だけれども、たまにい  
ることも言つ

### 仮面ライダー カブト

紅 渡

ちょっとおっちょこちょい、で、考え方が多い

### 仮面ライダー キバ

火野 映司

ユウスケとおなじく、おひとよし、いざとなると、アンクといつ  
しょに戦いコアメダルをグリードやヤミーから取る

### 仮面ライダー オーズ（〇〇〇）

海東 大樹

お宝が大好き！－！盗むことが、得意であだ名は怪盗の海東大樹

！－！

## 仮面ライダー＝ディエンド

響 大介

推理が得意な仮面ライダー

仮面ライダー響鬼

剣崎 一真

士のことを『チーフ』と呼ぶべきといふを、間違えて、『チーズ』と呼んでしまう一面が・・・

仮面ライダーブレイド

野上 良太郎

不幸少年で、世界も見放したほど

仮面ライダー電王

契約したイマジン

モモタロス・ウラタロス・キンタロス・リュウタロス

城戸 真司

新聞を作るカメラマン

仮面ライダー龍騎

津上 翔一

ちよつと？？？系で、わからなこともたくさんある

乾 巧

シンデレ系で、ツッコミがたーちよつと大変だけど、笑顔！！

仮面ライダー555

キバ！

士『…………』

翔太郎『よー！キバット！お久しごりだな！』

聞いたほうがいいのかな？あの事を

士『キバット・・・・・キバーラつていのコウモリ型のやつ＝女の  
子しらないか？』

キバット『キバー――ラ？？？？？妹だ――――』

！？！？！？妹なら、早く気づけよ！――！

つてか、妹の事忘れそうになるか？？普通に考えて・・・・・

士『静かにしろ！――みんな一喋るな！――』

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

総司『ん？？？夏美ちゃん！――抑えて・・・抑えて・・・士  
にやつちや駄目だよ！――つてか、士！――逃げろ！――夏美ちゃん  
だから、駄目だつてば――』

！？！？！？！？！？！

笑いのツボか・・・俺には、逃げるしか方法はない・・・

夏美『土くん!! 逃げなこでぐださこーおれなれば、『戻がすみ  
ません』

俺は、気がすむまでやらねれるのか???

渡『夏美ちゃんストップ・・・俺達も危険にさらせられるからね。  
・・・とめなこと・・・ヒーリング、やめましゅうつか』

渡のおかげで、助かったのか?

夏美『渡くんや、総司さんには、関係ありません!!!! 土くんには、みんなに冷たくしていた罰をあたえていくんですね』

ナリコわては、やめるしか、方法がないよな

土『おこねー!!!! やめりよ』

ゴウスケ『夏美ちゃんストップ!!!! 土は、みんなが強くなるために、わざと冷たくしてくるんだよな!!!! 土』

・・・

土『や、や、やうだな・・・』

? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?

渡『おこー!! 土、総司と俺をきて、お前の世界へ行つてもいいか???. あとで、じうせ戦うんだしな』

士』うん、先に行つてろ！――あとで、俺たちは、仮面ライダーの仲間たちをつれて、行くからまつてろよ――。』

いい事いつたと思つたら

士『写真館で、食い漁るなよ』

おこねにおこそれをこいつと、夏美ちやんが動き出さんだから・・・

光家秘伝・・・・・笑いのツボ

グイツ

笑いすぎではありませんか？？？こつちが、気持ち悪いです

ユウスケが先ですよ！――士くんは最後です

グイツ

ユウスケ『ああああ、治まつた』

グイ

夏美『私に感謝してくださいね、それに、コウスケにもですよ』  
はいはい

渡『じゃあ、行くから』

総司『じゃあ、あとでなー!』

といって、2人は、ディケイドの世界へといった

土『次の世界は、クワガの世界だ』

! ? !

コウスケ『俺の世界? ? ?』

土『一応言つておくけど、違つからね、お前の世界じゃないから  
ね』

そうなのか・・・

## 五代セスヒコウスケ（前書き）

震災で被災しておりますて投稿があんまり出来ませんでした。  
すみませんでした。

## 五代さんとユウスケ

クウガの世界…………….

士『夏美！……五代＝五代雄介の住所は知らないのか？？』

…………….

ユウスケ『五代さんって、俺と同じクウガなのか？？』

夏美『はい！……クウガです！！でも、ちょっと違いますけどね！』

何????無視????みたいなもの??それに、ちょっと違つて  
クウガなんだから俺と同じじゃんか!!!!

そんな事やつているから、後ろに敵が来ているじゃないか

士『何で、反応しないんだよ！……ってか、分からぬのか？？』

夏美『わっ！……士くん敵が後ろに居ました！……』

やつと氣づいたか…………氣づくまでに30秒少々かかったな

士『ユウスケ変身するぞ！……変身！』

く飯面ライド テイケイド…』

！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！

? ! ?

雄介『敵？？？変身しなきやーーー変身ー』

仮面ライダークウガ=五代 雄介来たし・・・・つてか、遅いよ  
俺もう変身してしまったじゃんか！

夏美『あれが、五代さんですね』

夏みかんが変になってしまった・・・・・

雄介『誰だ？？お前・・・・もしさティケイド』

士『通りすがりの仮面ライダーだ覚えておけ！！！』

・・・・・・・・・・そんな言い方ないと思つけどね

雄介『一緒に戦つてもらつているし・・・・お前がティケイドでも、仮面ライダーなら仲間だ！！』

そんな答え方つてアリなのか？？？？

敵『つてか相手になりやがれ～～～』

今まで敵は何をやつていたのかは不明である

翔太郎『フィリップ・フィリップ・・・・敵きたか？？？』

フィリップ『翔太郎・・・・そのようだねーーー』れはおもしろ  
そうだ！！！』

Wの2人は、見物客みたいになっていた・・・・・

士』は～～～『いつときには、任せるのが一番なんだが・・・・・』  
そりやると夏美に笑いのツボやられるしな・・・・・』

夏美・翔太郎・フイリップは、クウガの『五代雄介さんはちゃんと敵と戦っているのに、士は何をやっているんだといつふうに思っていた・・・・・

ユウスケ『士・・・・』

飽きたといふに言われる士

「…」  
「…」

士が後ろを見ていると敵がもう2体居た・・・それもなぜかブレ  
イドの世界の敵アンデットであった？

ナリハニハニハニハ・・・・これが一番』

仮面ライド キバ！< / >

雄介『違う仮面ライダーになつた????』

そう思つのは当たり前つて言うか、人並み・・・・・いい感覺し

卷之九

士『面倒だ！――さつそく必殺技を使つぞ！』

アタックライド キバ < >

＜ダーケスネムーンブレイク＞

翔太郎 あとは、五代さんの敵だけだ……!!』

雄介『おりやああああああああああああああ』

一応説明をすると・・・・クウガ!!五代さんは、敵に今のところ、必殺技は使っていなくて、かかとおとし・パンチ・キックで敵の体力を奪つているのであるってかナイスな五代さんなのであった

ユウスケ『俺も戦う！－見てられない！－』

士『止める！！！あれは、五代の戦いなんだ・・・邪魔はするな』

パタパタパタパタパタパタ・・・・(白旗)

敵『降参降参降参！！！』  
×1000000000』

パタパタパタパタパタパタ

翔太郎『五代さんが勝つた！――』

パタパタパタパタ

夏美『敵！！！！！パタパタパタパタパタつるさいです！！！  
静かにしてください！！！』

その間に・・・敵は逃げていったのであった

五代さん『あつ！！逃げちゃった・・・まあいつか』

そこは追いかけようよーーー口ボットか何かでさ・・・そこが  
五代さんのいいところなんだけどさー！

2人は変身を解いた

士『五代雄介・・・よろしく！』

雄介『よろしく・・・で、君の名前は？？』

士『門矢 士仮面ライダー ディケイドだそれに、こいつが、夏み  
かんでこいつがコウスケ』

ディケイド・・・

夏美『本名は光 夏美です。仮面ライダー キバーラです。そして  
ユウスケといいのは、本名小野寺ユウスケで仮面ライダー クウガで  
す』

俺と同じクウガ？？？？ありえない・・・・・

五代『よろしくーーー士！夏美ちゃんコウスケ！そしてこちらが？

?  
』

・・・・・・・・・・・・

翔太郎『それに、俺は左 翔太郎！探偵の仮面ライダー Wだ、そして、こいつが俺の相棒の』

フイリップ『フイリップだ！』

そこだけは言つんだ・・・・

雄介『よろしく！！翔太郎！フイリップそして！！！士一夏美ちゃん！ユウスケ！』

## 敵総勢1億を超える

意外に五代さんって気楽なんだな・・・まあそんな事は置いといてもいいとして・・・

今は一応、光写真館なんだよな・・・

翔太郎「クウガ」五代雄介を仲間に入れたら、次は、どの仮面ライダーの世界に行くんだ??士

士「翔太郎・・・フィリップは大体分かっていると思うから、フィリップに聞いてみればいいんじゃないかな??」

翔太郎はフィリップに教えてくれという顔をする・・・フィリップは仕方ないなという顔をする

フィリップ「多分、電王の世界じゃないのかな??」

士「あたりだ!!!」

フィリップにしては、珍しく「よつしゃ」と声を上げるかのように、フィリップは胸の前でガツツポーズをしていた

フィリップ「翔太郎・士・夏海ちゃん・五代雄介・小野寺ユウスケに告げる・地球の本棚に新しい情報が入ったようだ!!」

もしや・・・またあの情報だつたりして・・・

翔太郎「フィリップ読んでみてくれ!!!!早めにな!!」

フィリップ「ショッカー軍団の数が総勢1億対を超えたらしい、それにもうショッカーを生み出しているので戦つても、戦いが終わるめどが立たないかもしない……」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1億・・・・・1億日本の人口より少しけないが・・・油断不適だな・・・・・どうすれば・・・

フィリップ「土ビうする？？？」

日本人全滅いや、絶滅になつてもおかしくない！－！人数だな・・・戦う仲間を増やすしか方法がないんだよな・・・

士「シンケンジャー・ハリケンジャー・ゴーカイジャーにも助けを求めて一緒に戦つてもらおうか・・・」

5人？いや6人だと6人だからな・・・まあ人数的には足りるか・・・・・

夏美「みなさんちよつといいですか？？？？五代さんはお友達になりましたけど、「一緒に戦う」とは一言も言つていませんよ！－！－どうするんですか？？？？士くん！－！」

夏美が言つのも本当の事だしな・・・・・五代に言わなくてはならないのか・・・・

五代「あの～～士の家つてここでいいのか・？？」

夏美「士くんの家ではありません!! ただ単にこの私の祖父の光  
写真館に居座つていいだけです!!!! 本当は早く出て行つて欲しい  
のですが出て行かないんです!!!!」

そうだったのか・・・・・・・・

もうこいつといひ間違つてすまないな・・・・

士「中に入ればいいだろ・・・早く入れ!五代!!!」

翔太郎「無理やりは駄目だぞ士」

無理やつじやないしといいたそつこするつかせ

夏美の祖父「いらっしゃい!!!!」

!?-?-?-!-?-?-!-?-?-!-?-?-!-?-?-!-?-?  
!-?-?-?-!-?-?-!-?-?-!-?-?-!-?-?

あらたなる、仲間その名も五代さん

だれ！？

土『……………その反応つてありなのか！？』

五代『この人いったい何方ですかね！？』

と問い合わせる。10話目の最初の言葉が『だれ！？』だからね・  
・

夏美『私の祖父です。五代さんわかりますか！？』

あっ！！！夏美ちゃんのおじいさんね・・『めんなさい・・

ユウスケ『五代さん・・・あの今・・シヨツカ―が軍隊になつ  
て、民間人＝何にも関係ない人をおそい、殺しているらしいどうし  
よう！！』

何にも関係ない人が！？それは大変なことだ・・・だが、俺の力  
だけでは絶対に及ばないだろう

翔太郎『前話でもいつたように、シヨツカ―の数が、1億を超え、  
すごいことになっている。』

フイリップ『ショツカ―たちを倒す為に、協力して欲しい！！僕  
たちの命と1億人以上の人の命をかけたら、どっちが重いんだよ！  
！？そんなこともわからないのか！？』

俺たちの命と1億人以上の人の命をかけたら、ぜつたい1億人以上の人ほうが思いに決まっている。だから、助けたい。だが俺がいなくなつたらクウガの世界の人はいつどうなるんだ！？

士『別に協力しなくてもいいが、そしたら、仮面ライダーとしての恥となつてもいいならばな、それだけ、胸に刻んでおけ！』

なんだかこいつ、破壊者だがムカつく性格のようだな・・・

五代『俺は居力する。罪の無い人を守る為にも・・・・』

意外にいいやつだと思っていたが、決断にこんなに時間がかかるとは・・・みつともないやつとしてにんまいしてやるよ！

翔太郎『士は、五代さんが仲間になつてもらう為に、わざと、つめたくしていたんだよな！それは、俺にでもわかる。』

士『まあそんなところだ』

士・・・・絶対にごまかしているそれだけは、検索しなくてもわかるぞ！！d ソフィリップ

フィリップ『士・・・言わないから心配するな』

といい、つかさはそれにうなづく・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

翔太郎『五代さんは、先にディケイドの世界へ行ってくれ、あと

から俺たち仲間を連れて行く、先に総司や渡がこるから・・・』

! ? ! ? ! ? ! ? !

じゃあ、ねれもいへ、そりまとこいつ言葉を中心の中で残し、五代さんばティケイドの世界へ行つた

士『後も少しだな、がんばるしかないか・・・』

## 仮面ライダー電王の世界へ&おまけ！

士『そろそろ、電王の世界へ行き、仲間を作らなければならぬな……』

そう嘆く、士……

翔太郎『もう行くのか……多忙な毎日なのに……また、根詰めるつもりか！？』

士『まあ、そうしないと誰かさんの世界が危ないからな……』

それを言われたら、仕方がないがな……

それに、電王の世界で注意すべきことを言わないとあとで、最悪のことが起きるかもしれないからな……』  
『ソフ・フィリップ

フィリップ『電王の世界で注意すべきことを言ひ、ちやんと聞いてくれよ。』

みんなうなづき、フィリップの周りに集まってくる。……

フィリップ『注意はただ一つ。イマジンに乗り移られないようになる事だ。とくに電王の良太郎が契約している。〈モモタロス〉・〈ウラタロス〉・〈キンタロス〉・〈リュウタロス〉・〈ジーク〉っていう奴には、気をつけて欲しい。』

今回は、フィリップが変にならなくて住んだが、次回どうなるかどうかは……俺たちにはわかるわけがないシナ……

シナだけなんでかたかなになるのか！？それの意味が分からぬ  
…………

士『フイリップ！お前に聞くが、もし乗り移されたら、一体どう  
すれば俺の体から追い出すことが可能になるのか！？』

少々検索してから、答えを出すような感じのWのフイリップさん！

検索終了まで、あと10秒少々だと思します。

フイリップ『自分の意思で、追い出せばいいんだ！それさえ出来  
れば怖いものなんかない！』

そんなことが可能なら、最初ツからやつているのだと思つが・・・  
前に行つた時は、そんな事出来なかつたんだがな・・・

士『そんなことは、頭に入れといて・・・テンライナーのチ  
ケットこれ渡しておく。じゃあ、電王の世界へ行くとしようか・・・

』

IJの言葉を合図に、3人は、電王の世界へ行つた。

↙電王の世界へ

翔太郎『やつと、着いたみたいだな・・・』

本当にやつとだな・・・10分もかかつたからな・・・いつもな  
り10秒ぐらいなのだが・・・

士『今何時だ！？デンライナーの駅に行きたいから時間を教えてくれ！！！』

フィリップ『今、PM5：51分だ』

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・微妙な所に来てしほたようだな

士『5：55：55秒にどこでもいいから、ドアを開けて、デンライナーの駅に行く、それだけだ！』

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・みんなといつか、2人は、首を振る。

翔太郎『そういえば、良太郎に幸太郎という孫いたよな・・・』

フィリップ『いる。new電王だ』

そんなことぐらい、事前に調べておけつつつの

5：55：55

〈ガチャ〉

と士が、どこかのドアを開ける。

3人は、その中へは行つて行つてしまつた。

## 【イマジン】

士たちは、『デンライナー』の駅に行つた。しかも、大事な仲間のコウスケと夏美を置いて……

だが、そんなことなんか、頭の隅にもない士……。

それに、『デンライナー』の駅に『デンライナー』がいなかつたため、少々短期を起こしている士

いいろんな士を見る頃ができて、面白いと思つた。フイリップ

『デンライナー』の定番曲が流れ、『デンライナー』がゆっくじと士たちの前で止まつた

そして、乗車口から1人の少女がおりてくる

士は乗車券を出すので、それにつられて、2人も『デンライナー』の乗車券を少女に渡す

ナオミ『私はナオミです。『デンライナー』の乗車ありがとうござりますー。』

といふと、『デンライナー』の車内に案内してくれた

ナオミ『オーナーーお密せんぐースー!』

といふと、みんなが一齊に振り向く……怪物たちも……。

士『久しぶりだな良太郎・オーナー・とその怪物たち』

モモタロスく怪物つて何だよ！……』

ウラタロスく多分、それ先輩だけのことを言つて居るんだと僕は  
思いますけどね』

そんなこと言つたら、モモタロスが良太郎に乗り移つて、お前を  
襲うと思つんだが……

やっぱ外見は引くな……」いつら……だが中身はいい奴な  
のかもしれんな

キンタロスく……怪物は俺たちの事だろ……』

リュウタロスくそれは、キンちゃんとモモタロスの事だよね！き  
つと一ウラタロスは、ただ単にきもいだけだもん！』

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

お前は何なんだ！？

フィリップ『そういえば、良太郎はどこへ行つたんだ！？モモタロスやそのほ

かのイメージンとかオーナーさんもいるといつのに

オーナー『良太郎くんはそこで寝てます。』

「はな『昨日、4時間最強の敵と戦つてたから、疲れているんだ

4時間か・・・どんだけこじまつっているんだか・・・そんなの簡単に倒せるんじゃないのか！？！？

士『お前今敵が現れたら、すぐに戦いにいけるのか！？』

良太郎は寝ながら手を上げOKのサインをつくって、士たちに見せている。

フィリップ『敵が現れたようだね・・・』

翔太郎『フィリップ行くぞ！』

といつと、フィリップはつなづき、メモリを差し込む

〈サイクロン・ジョーカー〉

士『変身』

〈仮面ライド テイケイド〉

・・・・・・・・・・・・・良太郎はまだ起きよつとしない・

モモタロスが、良太郎に乗り移り、電王に変身する

電王の定番曲が流れ、変身する

M良太郎『変身！』

3人は、現実電王の世界に行き、戦いの準備をしていた・・・

【シナリオ（後書き）】

あつがとひじやこました

士・翔太郎・フィリップ・M良太郎は、敵と戦うために現実の魔王の世界に来ていた

前回の話ですでに、変身していたので、今回は前回を振り返らず。そのまま進める事にする。

敵は全部で3体。しかもイマジンだ・・・・・

士『?

イマジンは、奇妙な行動を取り仮面ライダーたちに向かい襲ってきたのであった。

なぜ、奇妙な行動を取ったのかは意味不明だが・・・・・ってか、誰も分かるもんか!と証言する作者

イマジン曰くお前ら何者だ』

士は、いつもの口調で

士『通りすがりの仮面ライダーだ、覚えておけ』

と普通にいい、まとめてしまつ・・・・・もつもつと仲間の仮面ライダーにもうちょっと言わせてよかつたよつな気がする

翔太郎『俺たちは、仮面ライダーW 私立探偵だ』

と、士に続いて、Wの翔太郎もこたえる。

フィリップは、全く興味が無いのでおとなしくしているようだ・・・

・・そのほうが、返つて翔太郎にとつては楽だがな

M良太郎『早く戦つてテンカライナーに戻ろつぜ!』

と良太郎のに入っているモモタロスがいう・・・なので、M良太郎の自己紹介?はモモタロスによつてカットされてしまつたのであつた。

士『じゃあ、これで行くか』

◀仮面ライダー 〇〇〇 ▶

タトバフォームにかえた士、オーズのカードは行く前に貰つたので、ここで始めて使用したのであつた。

W『翔太郎!これで行くよ!』

◀ルナ・トリガー ▶

メモリをチエンジし、黄色と青の姿になる仮面ライダーW

M電王『俺!参上!』

今頃がといふうに、みんなため息をつく、そんなことにも気づかずそのまま戦いを始めてしまうM良太郎。

まあ、モモタロスが入つてゐるからねとみんな納得してしまう

士は、イマジンaに、殴つたり飛びつきキックをかましたりしている、これが普通の人間に対してだつたら暴行罪になるだろう。

Wの2人は、イマジンbに、銃をむけつきつぎとうち体力をじりじりと減らして行つているまさに作戦！絶対これは、フィリップが考えたものだろう

M電王は、イマジンcに、モモタロスの得意技をいろいろとだし、いろんな角度から攻撃していた。それに、良太郎の体は結構悲鳴を上げていたのかもしれない。

最後に、3人オリジナルの技を出そつと決め

士は、ディケイドに戻り、キックを Wは、トリガーフルバーストを M電王は、剣で相手を真つ一つに斬る技を出し3体を退治した？

3人の間には 絆 が生まれていたのであつた

！仲間！

戦いが終わり、3人？はデンライナーに戻った。

そして、士・翔太郎・フィリップは、良太郎とその他のイマジンたちの説得を始めようとしていた。

翔太郎「おつかれ！良太郎！？大丈夫か？放心状態になっているけど」

たまに、放心状態になつてしまふ不幸少年野上 良太郎さん

士「まあ、俺たちがこの電王の世界に来た本題に入るが。いまシヨツカーが軍団を作り総勢1億を超えてる。日本の人口に大体匹敵する数だ」

そう、説明する士・・・シヨツカーと言う敵は、昔仮面ライダー1号や2号などの昭和仮面ライダーたちに倒されたはずだったのでは？という、良太郎の疑問

良太郎「昭和仮面ライダーたちにシヨツカーは倒されたんじゃなかつたのか？」

それに、賛同するイマジンもいれば、それはちがうと言ひイマジンもいたあえて、名前は出さないが

士は、翔太郎に言う権利？をあたえ、次に翔太郎に喋らせる事にしたのであった。

翔太郎「どこかに、そのショッカーの生き残りがいたんだ。だから今になつてこんなに増えたんだからな・・・証拠が無いがそれだけは言える。」

それもそうだ、と納得する土? フィリップは他に良い案が思ついたような思いついていないような感じだ? いや顔をしていろ

翔太郎「本当は全部倒されたはずだったんだが1人だけ生き残れば、この年数えたてば1億を超えたっておかしいことはない! 日本を守るためにもお前たちの力が必要なんだ!」

罪の無い人々を殺されてたまるかつてんだ! 苦しめたら俺がゆるさねえぞ!!!

モモタロス「俺はやる。良太郎がもしやらなくとも俺は日本のために戦う!」

良太郎「僕が、やらないつて、いついつたのかな? モモタロス! ! ! それに、ウラ・キン・リュウだって、協力しないと契約絶対きるからね」

つてか、これ、脅迫だったのか? はじめて知つたが、良太郎がここまで怖いとは・・・知らなかつたんだな俺も翔太郎もな

キンタロス「まつ! 良太郎のためにも一肌脱ぐとするか!」

リュウタロス「僕協力するけど! あてにしないでね! 答えは聞いてない!」

ウラタロス熟睡中のため。ひとまず後にすること決定中

士「Wの世界に行っている仮面ライダーがたくさんいる。そこで待ち合わせだ！」

といって、灰色のオーロラを土はだし、良太郎たちはその中に入つていく

翔太郎「次は、仮面ライダー オーズの所へ行こうか！」

つてかいてオーズと読むのは、頭がおかしいと思うが、D  
CDも大体同じ様なものだから、許すか・・・

そんな事置いといて、ユウスケと夏海をまず迎えに行かなくちゃ  
なああ11

## グリードのメダル

士たちは、仮面ライダー」とオーズの世界にやってきたのであった。

士「ここは・・・? 何で、目の前で仮面ライダーが戦っているんだ? しかもなにかと」

光写真館のドアを開けた士は、目の前で仮面ライダーがライオン? みたいなやつと戦っていたのであった。

士は、完璧に仮面ライダーとのライオン? みたいなつを無視しそのまま通り過ぎようとしていた。

? ? 「おい待て! そこのカメラ持った奴! 僕はカザリ! 面倒だから、こいつ倒してくれない?」

カザリというのか・・・変な名前だな。まあ、いいそんなのどうでもいいがな

士「俺は、必要最低限の事しかやらない」

といい、士は手を振って、カザリという奴と仮面ライダーとは反対方向に向かう。

? ? 「ちよつと待つてくださいよーーー」

そういう声で、声をかけてくる変身した仮面ライダー? ? ? なのか?

一応、念のためにも士は振り返つてみる。

士「何だ？面倒だが……変身！」

く仮面ライド デイケイド>

！！！！？？？この人、仮面ライダーだったのか？つてか、初めて見る仮面ライダーだな～俺が見た仮面ライダーは？バース・フォーゼだつた気がする～

フォーゼは、仮面ライダー オーズ将軍と21のコアメダルの採集の敵を倒す時。ピンチのオーズを倒してくれたんだよ～

？？「じゃなくて……」

オーズは、変身が解けてただのカラフルな服を着た、少年が倒れていたのであった。

士「はやくたて！～早くしたほうが身のためだぞ」

といい、少年に手を差し伸べる士……だが、その時は怒りに満ちていた。

く仮面ライド (オーズ)>

違う姿になつた。それも、俺と同じ仮面ライダー オーズにまでも！～どうじましょうか・・・もしかして、またまた違う姿になつちやつたりして～

士「おい！カザリつて奴！！仮面ライダーをいじめんなよ…」

といい、カザリをなぐり胸にトラのかぎ爪を胸に突っ込みメダルを取り、その少年に渡す。そのメダルは、ライオンのメダルだった

カザリは、逃げるよ<sup>う</sup>にして去つて行つてしまつた。

士は、変身を解きまたその少年に手を振り、反対方向へと歩いていく。

少年は、必死に士の服の袖をつかみ、こういったのであつた。

？？「俺は、火野映司です。これ俺が働いている所の名刺です。料理をあなたに食べさせたいので必ず来てください！」

そういう、映司は士の服の袖を離したのであつた。

君次第

士「翔太郎…」この料理屋に行くぞクス喜久治？どうも言えないな」

翔太郎「クスクシユ…ちゃんとよめよな…それぐらい、士でも言えるだろう」

士は、たまにかみかみになってしまつ。そこが、最大な難点だと思うがな・・・・・

フィリップ「僕も一応行つておく。結構おなかが減つたからね…・だつて、翔太郎が作ってくれないのだものしじうがないか・・・」  
フィリップお前つて奴は・・・俺を、ハードボイルドでは無いといつているのと同じだぞ！――！

相棒なのに、結構ひどい」と言つんだからな・・・・、結構身に染みて感じるぞ

翔太郎「じゃあ、いくとするか！..」

クスクシエ・・・・・

士「あの・・・・・映司つて奴いや人はいるか？紹介されてきたんだが・・・・・」

？？？「ああ！映司くんのお友達？？映司くん呼ぶから、これお連れさんと一緒に食べてて！――！」

と出されたのは、鳥のから揚げ定食3つであった。

それを、3人で1人前ずつ食べている。まあ、普通の事だがな……

翔太郎「士？お前食べないのか？ってか、食欲が無いのか？」

士は、から揚げを1つ食べた後、全部残していた。

映司「すみません。ああ！あなた！こないだはありがとうございました！」

翔太郎「士？こいつ助けたのか？」

「ああ」というように、士はつなぎ、映司・翔太郎・フィリップと言う順に、見ていく……。一応反応を見るためにね

映司「この方達は？どなたですか？」

士「俺の仲間だ。こいつも仮面ライダーだ。お前より1年先輩だ。」

「仮面ライダー？つてか、なんで仮面ライダーが2人も俺の世界にいるのかな？それが分からないんですけど……」

翔太郎「左 翔太郎私立探偵だ。そしてこいつが俺の相棒のフィリップだ。仮面ライダーWだ。」

士「今は、忙しいんだ早く仲間を集めないと……そういう

ば、海東の奴今はどこにいるんだ?」

そんなこと、僕の前で言われても・・・知らないわけですし――  
それぐらい分かってくださいよ

士「まあ、いいお前には俺たちの仲間になつてもらう。いまはシ  
ヨツカ一つて言う敵が、とある世界に攻め込んでいる。総勢1億を  
超えている」

翔太郎「日本人が全滅していいのか?それにお前の名言の中にも  
「人の命よりもメダルを優先させるな」メダルの所は、気持ちに置  
き換えていえばいい」

どう決断するかは、映司次第なのは、誰でも分かっているはず。

フィリップ「どう決断する?それは、君次第だ!」

映画決意固む。 (前書き)

おもしろいのが、わからないうち、読んでください。

## 映司決意固める。

「フィリップ」「どう決断するかは君次第だ」

それは、分かつているはずだ。自分自身もな・・・だけど・・・  
ここを離れてしまつて、グリードやヤミーが現れたらどうすれば  
いんだ?。

翔太郎「だな・・・もしかして、敵の事が心配なら、魔王に頼ん  
で、時間を元に戻してもらえばいいんだからな。」

士「俺たちは仲間ゴンジヤが欲しいんだ!お前がやらないなら、次の世界  
に行く。俺たちの関係もこれまでだ」

といい、写真館に戻つていぐ士。それにつれられ、翔太郎とフィ  
リップも写真館に戻つていく。

その姿を、映司はずつと見ていた。オーズに簡単な事だが、アン  
クがないとどうにもならないしな~。それに、もうオーズは古  
くなっちゃうし・・・

映司は、とつさにアンクのもとへ向かったのであった。

クスクシエ・・・・・

映司「アンク!――アンク!――・・・ビニード?」

アンク「映司!――つるさこ!――なんなんだよ――脛まつから――メダ  
ルはやらね~ぞ!」

そんなことじやないって言つんだがな・・・・・・  
メダルはいらない。ってか、もう面倒だから、アンクだけ連れて  
行つてやるし！――。

映司「ちょっとだけ、アンクと出かけてきます。」

といい、アンクを引っ張り、光写真館まで連れて行くのであった。

光写真館・・・・・・・・

映司「士さん――俺は、世界を守るために、戦いに行きます！後  
にいつも交えて！一緒に行きます！――」

士「分かった。じゃあ、このオーロラをぐぐり、俺たちが集めた  
ライダーたちいる。世界に行ってくれ――分かったか？」

映司はうなづき、アンクと一緒に灰色のオーロラをぐぐり行こう  
とするが、アンクが止まる。

アンク「あっちの世界には、アイスあるのか？？ないとはいわせ  
ねえぞ」

そんなことかよ・・・あるに決まつてんだろ！ただ単に買えばいい  
だけの事。それだけの事だよ。

士「あるよな翔太郎」

翔太郎「ああ、事務所の冷蔵庫にも入つていいからな・・・・・・」

それだけを言い残し2人は灰色のオーロラをくぐり、ライダー大戦の世界に行つたのであつた。

次の世界は、仮面ライダーカブト

士「やつと、次の世界にいけるな・・・・・・・・」

ちょっとは喜ばしい事だからな・・・後行つていな世界は、  
仮面ライダー力ブト・仮面ライダー響鬼・仮面ライダー龍騎・仮面  
ライダー555・仮面ライダーブレイド・仮面ライダーアギト・仮  
面ライダーフォーゼの世界・・・フォーゼの世界と言つても、こな  
いだ、始まつたばかりなんだけどな

翔太郎「まあ、次はどの世界に行くつもりなんだ?土?」

十はよく考へていいよひだ・・・だけひ、やまつ迷ひてこぬよ  
うな氣がするのよ、そればざひってなんだ?

士「次は、仮面ライダー・カブトの世界に決めた。なんか、おでんが食べたくなったからな」

それは、お前が行つた世界の天堂ソウジのおばあちゃんがやつて  
いた、おでんやさんで、俺たちが今から行く世界は、水島ヒロ演じ  
る、天道総司の所へ行くんだからな・・・・おでんは、食べれない  
！それだけは断言してやる

「では、こゝとするか・・・はやくこゝで、士の願いを叶えなければならぬし、そうしないと、士が怒つてしまつからな・・・」

怒つてしまわないと思つんだがな?。 そう思うのは、この左翔太郎だけか?

「フイリップも思っていたら、いいとおもうが、でもさつとき言ったのはフイリップだからな・・・」

士「というわけで、行くとする。そういうえば、なつみかんとコウスケはどこへ行ったんだ?」「

今頃かよ〜〜もう、もとの世界に戻ったんだろ!お前が、電王の世界において行ってしまったからな・・・お前のせいなんだよ!〜!

「この〜〜、俺、ツツ「ミミ」ばかりしているような気がする。乾巧みたいにだけはなりたくないよ〜〜

そして、仮面ライダー・カブトの世界・・・

士「ってか、今度は医者か?」

士は、医者の格好をしていた。そして、翔太郎やフイリップの格好はと言つと?

翔太郎「俺は、サッカー選手か? フィリップは、専門家か?」

翔太郎の言つたとおり、翔太郎はサッカー選手みたいな格好。フイリップは眼鏡をかけて、専門家みたいな格好になる。

士「あれは誰だ? あいつどつかで見たような・・・天道総司つて奴か? ? ?」

翔太郎「おお水島ヒローじゃなくて、天道総司さんだな!〜! ああ仮面ライダー・カブトだよ! 士!」

仮面ライダー？あいつがか？マイペースな奴っぽいが、あいつが  
仮面ライダーなのか？分からぬがな・・・

翔太郎「声かけてみるか？士？」

士「いや、面倒な事はいい・・・」

## 天道総司と門矢士[1]対面

仮面ライダー・カブトの世界に来た、士・翔太郎・フィリップ  
総司を見かけたが、士は無視し、そのまま「写真館」に帰ってしまった。  
たのであった。

光写真館・・・

翔太郎「おい！士！いつ誘いに行くんだ？？？あの総司って人の・  
・・・・」

フィリップ「翔太郎！急かすなよ！そのぐらい、士だつて分かつ  
ているはずなんだからな・・・・」

翔太郎が言つた事に、フィリップが士をフォローしたのであった。  
まあ、フィリップが士をかばう事は、ほんのたまにしかないことだ  
けれどもな・・・・

士「明日行くから、それぐらい分かるだろ！――」

まあ、それぐらいには、長い付き合いだから分かるからな・・・・・  
・！――。

フィリップ「じゃあ、もう行くか！それしかない。お前たちの道  
はこれしかないんだ！！分かつたな！」

なんか、フィリップが変になつた気がうする？それは、気のせい  
のような、気のせいのようじやないような・・・？もうわからぬ

士「フィリップがうるさいから、今日行く！。翔太郎ついてこい！フィリップは、ここにいろよーもしも、ミュージアムに狙われたら助けられないからな・・・」

といい、フィリップを残し翔太郎と士は、総司を探しに行つたのであつた。

街・・・・・

やつぱり、街つてにぎやかだな。と感じる。やはり、街は活気に溢れていて、もしかしてここがショッカーの軍隊に襲われたらと思うとゾッとする。

翔太郎「そこら辺の路地裏のほうにいそぐじゃないか？なんか、予想だがな・・・・・」

そういう、翔太郎は路地裏の道に行つてしまつた。士は、翔太郎とは連絡が取れるから別に別行動しても大丈夫だと思い。近くにあつた丘を登る。

そこには、1人、人がいた。髪の毛は黒、ちょっとパークがかかる、くちゃくちゃになつてゐる髪の毛。背は高く、その人の周りには、普通の人とは違うオーラ？みたいなのが、士にはみえたのであつた。

？？誰だ？あのもじや毛あたまのやつは・・・・？あれが、仮面ライダーかブトとか言わないよな・・・

？？？「お前、誰だ！俺は、天の道をゆき、総てを向る男。天道  
総司だ！」

やつぱこいつが、仮面ライダー・カブトか……？いや、そんなわ  
けは無い！」いっは、ただの変な奴それだけだ

総司「お前、誰だ？」

士「門矢 士 通りすがりのものだ。ただ、それだけのことだ。」

それだけいい、士は、立ち去ったのであった。その姿を、総司は  
士の姿が見えなくなるまで見ていたのであった。

総司「あいつ！もしや天堂が言っていた。あの門矢士なのか？？  
？だとしたら、仮面ライダーだ。しかし、なぜ本当の事を言わなか  
つた？」

そういう、疑問が総司の頭の中にいっぱい込みあがつていったの  
であつた。

光写真館・・・・・

翔太郎「総司いなかつたのか？もしかして、あつたんじゃないの  
か？その顔は・・・・・」

フィリップ「僕も予想するよー。君は、天道総司とあい、少しだ  
が話をした。そして、自分から立ち去つた！そつだらつー！」

なんで、フィリップは全部当てるんだ？意味分からぬぞ！！お  
いおいおい！－地球の本棚とかいうのをもつているとは知つて

いたが、それがドコにあるのかも分からぬ！・フィリップは、分からぬ事だらけだ。

士「フィリップや翔太郎の言つたとおり、天道総司にあつた。しかし、自己紹介ぐらいで俺は、帰つてきたが？。それだけだ」

元の士に戻つたような気がするんだが？？？元の士つて一体何なんだ？？それがわからない！自分で考えといて・・・俺つて馬鹿だから、みんなに「ハードボイルド」じゃなくて「ハーフボイルド」って呼ばれるんだよ・・・

翔太郎「じゃあ、俺、明日市役所行つて、総司の家の場所調べてくるから、それまでは、こここの光写真館から一切動くんじやないぞ！」

フィリップ「僕は、知りたいものを検索していればいい。」

士「俺は、テキトーに暇をつぶす。」

士はそれだけいい。ベットに横たわつたのであつた。翔太郎はコンビニで弁当を買い、フィリップに渡し、士の分は冷蔵庫に入れしたのであつた。

天道総司と門矢士「」対面（後書き）

感想送つてください。お待ちしています。

## 天道総司の過去とは？？

次の日の朝、

士は、昨日ベットで爆すいしていたことに気づく。翔太郎たちをさがすが、どの部屋を見てもいないので。

それもそうだ、翔太郎はジョギングと図書館、フィリップは町の散策と図書館に行つたからしかたもないこと、それに今は午前10時士が寝すぎたのであった。

士「今日も仕事をしなければならないのか？？？ってか、俺の仕事って何なんだよ！」

と自分に問いかけ、自分で答えようとするが、分からないのであつた。自問自答にはならなかつたのであった。

「ガチャ」と音を立て、ドアが開く。そこには、見慣れた人物がいた。一瞬ほつとした士・・・

翔太郎「士！手伝え！フィリップの奴が20冊も本を借りて、もつて帰るのが大変なんだ！ほら～～手伝えって！！」

士は、翔太郎に連れられ、図書館に連れて行かれたのであった。

図書館・・・・

翔太郎「この6冊の本よろしく。あとフィリップがまだかえらな  
そุดだから、運んでおかないと後で面倒なことになるからな」

士「今でも、面倒なんだけどな……だが、後で面倒になるのは、もつとだめだ」

のつたな・・・やつたな!といふことで、6冊はいぶつもりだつた、士に、翔太郎がもう2冊上に乗つける。

士「おい! 翔太郎!! 僕はもう無理だ! この分厚い本は。。。だな」

じゃあ、分厚い本じゃなければいいのね! ?と感じてしまったフィリップ・・・まあ、そんなことはおいといでなー

フィリップは、また本を借りようとしているので、翔太郎はそれを止め、引きずつてもフィリップを事務所に持つて帰ろうとする。

フィリップ「翔太郎! 僕の事は放つておいてくれ! 今は事務所には帰らないからね!」

そう断言し、フィリップは図書館の奥に消えて行つてしまつたのであつた。

翔太郎「フィリップの事は、大丈夫だから、早く写真館に帰らう!」

つてか、なんでさつきフィリップは写真館ではなく、風都にある。鳴海探偵事務所の事を言つたんだ?? 鳴海は余計だつたか?

まあ、そんなこと、どうでもいいがな・・・! ? ! ? ! ?

光写真館・・・・・

士「おい、この本どうすればいいんだ?? 答えは聞かない、この本はこのフィリップ専用の机においておく」

翔太郎「おつかれさん! あと、フィリップには伝えておくから、もうお前の仕事は終わりだ・・・そんなことより、総司の所へ行ってこい!」

ああ、天道総司のことを忘れてしました、ずまんいやすまん!! !このじる、よく噛んでいるような気がする。そんなことは、どうでもいいがな。

そんな時のかぎつて、敵が現れる。渋谷隕石に乗っていた、ワームが町に現れたのだ。

翔太郎「士・・・お前は、総司のところへいけ! おれは、ワームをおい、倒してやつてくる。フィリップは図書館居るから大丈夫だろ」

といい、翔太郎は、写真館のドアを乱暴に閉め、ワームを倒しに、1人でいや、2人で行つたのであった。

士「俺は、何で面倒な事を・・・まあいい、行くか」

といい、士は、総司がいそなところにいくのであった。

敵との戦い・・・・・

翔太郎「あいつか・・・変身!!」

・・・・・・・・・・・・・

フィリップ「またか・・・・・変身」

・・・・・・・・・・・・・

サイクロン・ジョーカー>

ワームは、変な格好をしていて、今の翔太郎にはせつめいできな  
いじょうたいであった。

ちょっと、やばいかもしないという格好ということだけは、ご  
理解いただきたい。

翔太郎「やはり、俺には無理な気がする～～～！～～！」

フィリップ「翔太郎！ちょっとは、我慢したらどうなんかい？」

フィリップの言う事には、もう飽きたんだな・・・それは、十分  
誰でも分かっているはずだ。

翔太郎「もう！フィリップこれで行くぞ！～！」

<ルナ・トリガー>

フィリップ「翔太郎！面倒だ！～これで決めるよ！～！」

<トリガーフルバースト>

そして、いつも簡単に、ワームは倒されたのであった。

そして、士はといづと？？？

総司を探しに行つたのだが、全くいないし、翔太郎が早速調べた、情報屋に行つても、総司の情報が全くないのだ。

家の情報もないし、翔太郎に一応聞いて見ないとな・・・

光写真館・・・・

翔太郎「総司の情報？あいつは、いつも士がこないだ行った丘にいる。その情報しか探偵の俺の耳に入らないからな・・・」

士「そうなのか・・・分かつた。ありがとな」

つかさが！お礼？を言つた、なんて、士にとつては凄い事なんだろうか・・・それは、1年に1回言つか言わないかということだがな・・・

フィリップ「やうだ！地球の本棚にこんな情報が入つたけど？聴いてみるかい？」

2人は、フィリップの下に近づいてくる。そして、フィリップが地球の本棚にはいりある本を取つてきた。

フィリップ「この情報は、もらさないほうがいい。総司はこのあいだ、妹をなくした。毎日墓参りに行つてているらしい。」

・・・・・・・・・・・・！俺が行つたときは、生きてい

たぞ！――

つてか、それは天堂さんのときだから、しょうがないと思つんだ  
けど・・・

翔太郎「士それは、違つと思つぞ・・・・多分な・・・」

フィリップ「妹は、ワームとの戦いに巻き込まれ亡くなつたと書  
かれている。」

そうなのか、じゃあ、手分けして天道を探し出すそれだけだ。

総司仲間になる。

翔太郎「今日は、この周辺地域を総司がいかさがしてみるぞ！」

士「面倒なことは俺はごめんだな」

フィリップ「そうしないと、ショックカーがな・・・日本に攻め入ってしまうぞ、どつかの世界が滅びてしまう」

フイリップの脅しに土は脅迫され中・・・それはおいといとかないとね！！！ dy 翔太郎

本当に面倒な事ばっかりなんな士だが、これだけはビーハンもない  
ことだからな。

翔太郎「早くしなければ、このガイヤメモリおまえに打ち込むぞ

! ! ! !

ちよつとやばい事言つている人が一名いるんですけどー。&ハッシュ  
ようか? d ヲ天の声

つてか、天の声つて一応作者つて事だよね！ 答えは聞いてない  
dyリュウタロス

なんで、リュウタロスや作者などがいるのかも知らないけどな・・・?  
とおもう。翔太郎なのであつた。

士「ちょっと待ておいーお前結構やばい事言つているんだがな、それ気づけそれだけだ・・・。」

士結構冷静だなと思つている翔太郎・・・そして、フイリップは何にも考えていない様子なのがそれはわからない。

翔太郎「これ、フイリップが携帯作ったから、これもつていけ！何かあつたら電話しろ！その中に、俺の電話しろ！…」

その携帯は、手作り感は全くなく、ちょ～～完璧～～つて感じの水色の2つ折り型携帯なのだ。そして、防水型なのだ…！やはりフイリップの作るものは、完璧なんだな。

やっぱフイリップは天才だと思うのは、俺たちだけか？？？

士は、総司を探すため光写真館を出て行つたのであつた。

総司のいる丘・・・？？？なのか？

士「いたな。。。おい！お前この写真の敵知つていたか？？？」

総司「その前に、お前誰だ・・・？？つてか、それはワームだ」

つてか、答えになつていらない氣がする？よつなか・・・まあいいとして、答えたほうがいいと思うのか・・・

士「通りすがりの仮面ライダーだ。覚えておけ！」

総司「仮面ライダー？俺のほかにも仮面ライダーがいたのか？？」

そんなことも知らなかつたのかよ！…と翔太郎がいたなら、そつ  
ツツコリをするだひづと思つただがな・・・

総司「おばあちゃんが言つてこた、俺のほかの仮面ライダーひとつ  
るむなと」

おいおい、おばあちゃんを頼りにするなど…！言いたい所なんだ  
がな・・・それも、仮面ライダーといふんでいる気がつするんだけ  
ど・・・それはどうしてだ？？

士「妹のためだとしたら？その友達のためだとしたら？」

総司の顔色が一瞬で変わる。「それはどういう意味だ？」と総司  
の顔色で、士は判断してしまうのであつた。

総司「妹は死んだ。ワームのせいだな。俺は、悪者を憎んでいる  
ただそれだけの事だ」

なんか、最後は、士の口調に似ているような気がしたんだが？？  
？それは気のせいなのか？？

士「じゃあ、電王に頼んで、妹に会わせてやつてもいい。条件付  
だがな」

総司は、「条件付」といつ葉にせはつ、反応する。ほんの「ピ  
クッ」つていいくらいだがな。そのぐらこの凶心も、十の四七五、  
「お見通し！…」つて感じなんだがな・・・

総司「おこ！…仮面ライダー・・・条件を言つてみろ……」

士は総司の言葉に少々喜ぶのであった。

士「俺と一緒にショッカーを倒す。それだけだ！これをクリアすれば、妹の顔だけは見せさせてやる」

総司は、妹に激愛？？しているので、絶対にこの条件をのむと思つただが？？そう思うのは、この俺だけといつわけか？？

総司「のんでやる。お前の仲間を見た。紹介しろ俺は、このひる人見知りになつた」

人見知りなのは、妹がなくなつてからだ。前までは違つたのにな。  
・  
・  
・

光写真館・・・・・

翔太郎「俺は、左翔太郎。こいつはフイリップ。俺らは仮面ライダーWだ。」

フイリップは、読書ばかりしていく、総司のことを全く見ようとしない。

フイリップはやつと総司のことを見たが、すぐに読書に見入つてしまつた。

総司「よろしくな・・・・！」

士「あと、大戦の世界へ行つて行つてくれ！みんなが行つてゐる。

翔太郎「総司俺は、お前の事をあまり信用していない。大戦のときには、力を發揮してくれる事を願う」

総司は、何も言わず、うなづく。そして、士と翔太郎は、いろいろな事を総司にいう。そして、釘を刺す。

そして、士は灰色のオーロラを出し、総司をその中に案内する。そして、1回大戦の世界に士は行き、みんなの様子を見てきたのであつた。

翔太郎に言わせれば、最後は全く総司は、何も言わず、大戦の世界へ行つてしまつた。それだけの事だ。

士「また一人増えたな・・・」

翔太郎「そうだな・・・あと、アギトと龍騎?と5555ぐらいか??」

それもそうだ!という顔をする士・・・フィリップはどこかへ行つてしまつたらしい。

士「じゃあ、次は、龍騎の世界だな・・・」

龍騎の世界

士「着いたか・・・」には、色々な仮面ライダーがいる世界と聞いたが、フィリップ！説明してくれ！」

フィリップは頷き、翔太郎と土の前に立ち、教師みたいに話し始めるのであった。

「フィリップ「ヒーロー」ワールド」と書いて鏡の世界を行き来できる。その技を使えさえすれば、俺たちは無敵だ。」

微妙な説明でしたな、  
フイリッブくん

でも、ミラーワールドのことについては、士や翔太郎は分かつていたので、一応分かっていたので、大丈夫であった。

これがもし分からなければ、フイリップの説明では全く分からなかつたと思う。

翔太郎「それで、主人公の龍騎に変身する。城戸真司くんはどこなのかな?????」

士「わからないのか？？そのへりに調べておけ！」

おこおこ十一・ひよつとまへりり・・・・・お前だつて調べてないん  
だらーーー・びひせな

翔太郎「分からないから、質問してんだろうが！…それぐらい分かれつうの！」

フィリップ「翔太郎の言つているとおりだと僕は思うんだけどね。士！…わかるかい？？？」

翔太郎とフィリップが仮面ライダー以外にタッグを組み、士を倒そうとしているのは、初めて見るような気がするのだが・・・

フィリップ「士！知識力なら僕が勝つと思うよ！…！」

それは、ごもつともな意見だとおもうんだけどな・・・翔太郎も誰もフィリップに知識力は勝てないと思つていてる。

翔太郎「フィリップ！そんなこと、誰でも分かっている。もう編集者でも行つてお前の知識を見せてきたらどうだ？」

この言葉を聴き、早速編集者に行つた。翔太郎はただの、「冗談のつもりでいつたつもりだったのだがな・・・」フィリップは本気にさせてしまつたらしい。

翔太郎は少々反省中つて所かな？？？フィリップは夜9時ごろにやつと帰つてきた。その顔は凄い笑顔だったのであった。。。。

そして次の日・・・

翔太郎「！士！これ見てみろよ！…」フィリップが載つていてるぞ！！！」

「なんなんだ？」見たいな感じで、新聞を見てみると！見出しに

は「天才！青年大大大発見！」と書いてあった。

士「やつちまつたのか……。フィリップ……翔太郎どうするんだ？」

内容は、名前はフィリップ。世界中のあらゆることを知っている少年。これからこう期待！分からないこと募集中！

なんて事を書かれていたのであつた……。

翔太郎「フィリップが人気集めたらどうなるんだ？分からぬ。フィリップの顔だと人気集めるぞ！！対処するしかねえだろ！」

そんなことに期待してどうするんだよ。人気集めたらどうなるつて、ファンが増えるに決まっているそれだけのことだ。

フィリップ帰宅……。

フィリップ「そうだ！これ新仮面ライダーのベルト作つた。人はもう選んである！。名前は、後で発表する。」

翔太郎「何で、こいつときに、ベルトを作るんだよ！ライダーは必要だけど！訓練とか必要じゃねえかよ！」

士「翔太郎と同感だ……。」

翔太郎の意見に、士も同感するのであつた。仮面ライダーのベルトをつくるとか、やっぱり天才なんだな……。

翔太郎「それで、その仮面ライダーの名前って言つのは何なんだ？」

「フィリップ」「仮面ライダー・ライドだ。ドライビングするみたいな  
かんじなのかな・・・」

そんな感じって、どんな感じ何なんだよ！――それは、フィリップ！お前しか分からぬはずなんだがな・・・

翔太郎「ライドの変身人物ってだれなんだよ！――教えるフィリップ！」

「フィリップ」「まあ、いいけど。水乃影楼みずの かげるだ通称かげだ。！」

影楼は、忍者村出身。年齢は17歳。頭がよく、理論的に考え行動する。

身長は185cm。体重は66kg。金髪で皿はエメラルドグリーン。全身ほつそりしている

翔太郎「なら、その影楼といふに会わせてくれよな！。約束だぞ！フィリップ！よろしくな！」

「フィリップ」「分かった。電話で取り付けておこう。」

本当に電話で取り付けておくのだろうか・・・。フィリップを信用していいのか？なぜ相棒を俺が疑うのか？？

土「これが写真って言つわけだ。」

翔太郎「なんで、士が持つているんだ? その影楼とか書つ奴の写真をな。」

士が持つていたのは、長身の若い青年が写つてている写真だったのであった。

士「この間、お前の情報やから貰つたんだがな・・・? 黙りだつたか? ?」

なんで、俺の情報やからもらつたんだ? ? ちょっと意味が分からぬのだがな・・・?

翔太郎「それは、もうどうでもいいことだ。」

士「じゃあ、この写真はどうだ? ? この影楼の制服姿は?」

お~お~お~お~、お前は、その新仮面ライダーの影楼の写真を一体何枚持つてゐるのか? ? どれだけ、俺の情報やから写真を貰つてているだろ? かという話なんだがな・・・

翔太郎「もう、どうでもいいから! 次の話は、絶対にそのかげろうを、変身させ俺たちに会わせろよ!」

フイリップ「わかつたから! 静かにしてくれないかな? 僕はイマ本を読んでいる所なんだ! 邪魔しないでくれる?」

すぐに話が変わった氣がある。まあそんないとビリでもいいか!

!!

## かがれつ無じつて本当か?と城戸真司

つてかさへ龍騎の世界に来たつて事を忘れていたよつな氣がするんですけど・・・あの新仮面ライダーの話で持ちきりだつたからね・・・

そして、その仮面ライダー主人公が今回始めて登場!なのだ!!!  
!だから!?文句あるかい???

見たいな感じなんだけどね・・・それは、どうかに置いといで・・・

翔太郎「フィリップ!」になつたら、影楼にあわせてくれるんだよ!」

フィリップ「今日、事務所に来てくれるよつに頼んだんだよ!そして、一緒に戦つてもらえるよつにね!」

フィリップ!お前は嫌な所もあるけれど、親友として、いや相棒としてよかつたとも思う時が、いっぱいあるぞ〜

士「かげろうは、何時に来るんだ?ってか、ここ光写真館なのだが・・・事務所ではない!」

まあ、フィリップにも間違える事があるつて事なんだよな!それをイマ証明してくれたつて事だけ??

翔太郎「今のは、フィリップがたまたま間違ただけだ!!許してやつてくれ!」

士を説得する翔太郎なのであつた。

「のあいだの、フイリップの翔太郎をカバーしたように、今回は、翔太郎がフイリップをカバーしたのであつた

士「分かっている。だが、一体何時に来るんだ？」

フイリップ「午後6時だ。覚えておけ！」

おいおい、今のは、フイリップが俺の名台詞を取ったんだよな！  
じゃあ、俺も勝手に取つてやる！

今は、朝なので、編集社に向かおうと言つたのであつた。かげろ  
うが来る前に・・・

編集社・・・

翔太郎「あの～城戸真司ってひといますか？」この編集社にな？」

受付いやインフォメーションセンターの人においかけている翔太  
郎・・・

センターの人「ただいま、こちらにむかっておりますので、少々  
お待ちください！えっと、お名前は？」

ここは1階だから、今エレベーターで向かっているという事なのか？車でこちらに向かっているという事なのか？それが分からぬ。  
・・・

翔太郎「左翔太郎。こいつはフイリップ。こいつは門矢士だ。」

センターの人「真司さんとは、お知り合いですか？」

お知り合いなわけないだろ……あつたこともないといつにな……

翔太郎「高校のころの同級生なんですけど。名前は出さないでもらえますか？ ドッキリにしたいものですから…」

なんとか、カモフラージュしたけど。ばれてはないよな……ばれたら、土のせいにして逃げてやる……

フイリップ「僕は、あいつと一緒に働いていた事があつてね！ 前に「たまには編集社によつてくれ！」といわれていたもんでね！」

やはり、ちょっと無理があつたかもしれないな。ドウフイリップ もうちょっとで念えるのか？ ドウト

センターの人「では、5番テーブルにおかけになつて、あとでコーヒーなどをもつて行きます。あと少々お待ちください！」

5番テーブルに座る3人組・・・・・

翔太郎「説得は、土がやつてくれよー俺は、そういうのは苦手なんだからなー！」

土「やればいいんだろ？ あとは、テキトーにすればいいんだからな！」

テキトーつておいおい！それに、「やればいいんだりつー」とか、言つちやいけない言葉だとは思うのだが……

フイリップ「来たと思つよー。」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

Hレベーターが開き、一人の少年？いや、青年が水色のジャケットを着ていたのであった。

？？？「君達は誰だ？知り合いではないな。」

士「門矢士だ。」いづらは左翔太郎とフイリップだ。お前と同じ仮面ライダーだ。」

仮面ライダー？でも。あんなに龍騎の世界にいるのに、これ以上に増えたらどうするんだよ～～

？？？「これ以上この世界には、仮面ライダーはいる。」

翔太郎「城戸真司！お前の世界に住むなんていってない、俺たちは違う世界から來ただけだ！」

なぜ、違う世界から來たんだ？それに、3人もな・・・

真司の言つとおり、これ以上龍騎の世界には、仮面ライダーはないはずなんだけど・・・

真司「じゃあ、なぜ俺の世界に来たんだ？？」

翔太郎「士！説明、ひつひつよろしくなー！」

翔太郎は、真司の言葉を聞くと、すぐに士に説明を依頼するのであつた。

士「分かったよー！俺たちは、仮面ライダーの仲間達をあつめている。なぜかというと、ショッカー＝敵が日本の人口を超え、やがては攻めてくるという情報がはいつてきたからな・・・！」

すゞい、長い説明だつたけどおつかれさんーってとこだな！

それに、この説明を何回聞いたことか・・・それは、言わないでおこうといつものだけだ。

真司「さつきは、変な事を言つてすまない。仮面ライダーと聞いてただけでな・・・。」

翔太郎「まあいい、人を外見で判断するのと同様だ。」

翔太郎の言つている事はちよつと違うような気がするけどね・・・？まあ、いいだろいとおもう士なのであつた。

士「ていうか、かげりつの奴この話で出てくれるはずじゃなかつたのか？」

それをいつの？いまから？もつ終わりとこいつことなの・・・

翔太郎「フイリップからの伝言。次話だつて！」

つてか、フイリップは隣にいるじゃんかよーなんで、それなのに  
翔太郎を通じて言わなきゃいけないんだよ！

士「どうでもいいや……」

フイリップ「じゃあ、僕はこれで失礼するよ！調べ物をしなけれ  
ばならないんでね！」

と、フイリップは編集社から去ってしまったのであった。まあ、  
どうでもいいことだけど？

士「今回は、これまでにしよう。そのほうが、会つまでの楽しみ  
も増えるつてもんだ。」

ただそれだけのことさ。では、今回はおしまいだー・じゃあな

## 名前決定？

かがるうつ參上！の巻き？？？？？なのかな？

フィリップ「紹介する。」いつが「かがるうだ」！」

本当に身長が高く無駄な体脂肪が無いみたいな感じだ・・・それに、髪の毛はスーパー戦隊35作品目の「海賊戦隊ゴーカイジャー」のジョーギブゲンぐらの髪の長さなのだ。知らない人は、腰ぐら今まで髪の長さがあるってことだ。

翔太郎「つてか、大きくないか！？」いつーなんか上から目線なような気がするんだが・・・」

士「翔太郎！それを言つてはおしまいだ！！！」

そうだな！と感心する翔太郎。

士は・・・本当の事を言つちました。まあそんなのどうでもいいことだがな

俺（士）、「これからは」いつと旅をともにしたい気分だ。

フィリップは、検索ばかだし、夢中になると周りの事が見えなくなってしまうし、

翔太郎、ハードボイルドとか自分で言つているが、完璧にハーフボイルドだ。それに、いつも帽子をかぶつっていて辛氣臭いんだ。

そんなこと俺にとつては、そうでもいいことだが、かげろつおまえの能力を見せてもらいたいものだな！

そんなことしらだめなのか？そんなこと誰も言つてはいない！！

影楼「ベルト完成しているのか？それに装備などもな・・・。

」

フィリップは本を読みながら、静かに頷く。それに、土の頭にはある疑問が浮かび上がったのだ。

翔太郎「なぜ、こいつを新しい仮面ライダーにしたんだ？？それが分からぬ。運動神経はいいかもしねないが、どうしてなんだ？」

フィリップは「その質問！待つてました！」といつよつに、立ち上り！、説明の準備をし始めたのであった。

そして、フィリップはそちらへんにあつた、ホワイトボードを持ってきて！、書いて説明するのであつた。

フィリップ「影楼は、僕の親友の子供ということも一理ある。そして、運動神経もいいこともまた一理。最後に人柄、人を助けたいという気持ちが沢山あるとこうことが理由だ」

やつぱり、運動神経の事も入つていたな・・・それに、お前の親友つて誰なのや！それに子供つてただ単に簡単だからなんだろ！つてかんじ

翔太郎「フィリップ！俺の相棒が気に入つた奴なら、仕方が無いがな。無茶なまねだけは絶対にするんじゃないぞ！わかつたな！」

翔太郎は、弟子のよつに影楼について。それをきいて、影楼はゆつくつとうなずく。

士は、その様子を見ていて、ひとつ氣になつた。

士「お前、動作は遅いのだが、本当に忍者なのか？」

フイリップ「その質問には、僕が答えるとしよう——こつは、変身していくなくても50メートルを5秒で駆け抜ける。」

50メートルを5秒で走るなんて、尋常じやないいや、人間ではないただ、それだけのことだ。

つてことは、変身したら一体どんな速さになるんだよ、全く想像がつかない。

影楼「この場でお見せしよう。」

と影楼が始めて喋つた言葉だったのであつた。

50メートルをフイリップが測り、翔太郎がストップウォッチをもつて50m先にいる、そして、この俺が「ヨーリドン」などといふ手はずだ。

俺は、面倒な事は避けたい。だから、ヨーリドンは、まさに適当に詰つのであつた。

「ヨーリドン」

そして、あつという間に翔太郎前を通り過ぎるのであつた。

翔太郎「はやっ！記録、4秒28だ・・・やはり人間じゃない！あの人類最速の男ウサイン・ボルトよりもはえ〜〜し」

ボルトは、オリンピックや世界陸上で100メートルや200メートルで、人類最速と呼ばれている男のなのだったのだが・・・

今では、そうではないらしい・・・のだ・・

士「そういえば、龍騎の世界だつてこと忘れていないか？俺たち

「そういえば」とこりよくな顔をする2人、この3人は影楼のことで頭がいっぱいになり、「龍騎の世界」に来ている事も忘れてしちつていたようだ

翔太郎「影楼！お前には、今日から別名で呼ぶ。本名で検索されたら、いやだからな・・・」

フィリップ「じゃあ、城戸楓月なんてのはどうだ？」

なんか、女っぽい名前だな。それに、フィリップの名前のセンスがちょっとな・・・女子っぽいというかなんというか。・・・

それに、龍騎の世界だつて事もアリ、「城戸」って書ひ曲字にしたらしいな・・・

だが、やはりセンスはダメかな？

士「名前だけでいいだろう。影楼！お前が好きな名前を選べばい

い

影楼は考える。そして、

影樓「霜月神のほうが、フィリップさんが考えてくれたよりはいい」

おいおい！それは、フィリップのセンスが駄目って事だな！でも、本当の事だからいいがな

翔太郎「自分で決めたんだからそれで自己満足しろよ！俺たちは神とよぶ、俺たちは本名だから」

なぜ、影樓から神にしたかというと、忍者という事もばれてはいけないし、一応デスノートにかかる場合を想定して・・・俺たちは、どうせ、書かれてもいいと思つていてるのだ。

つてか、デスノートってこの世に存在しないのでは？つてかんじだけどね

神「フィリップさんと翔吉さんと十さんだね」

翔太郎「おいおい！俺は、翔吉じゃなくて翔太郎だつつの！何で、俺だけ忘れられているんだ？」

しょうがないじゃんこれから覚えればいい事なんだからな！

## 龍騎の世界とは全く関係ないような？

龍騎の世界にはいっぱい仮面ライダーがいることは「存知だろつ。しかし、全員優しい心を持ったものとは限らない。それに連れて行けない。

龍騎とナイトは完全に決定されているが、そのほかどんな奴がいるのかも知らないのだ。士以外はな

分かっているわけが無い。わかっていればそれはとてもいい事なのだが、神にも協力してもらわなくてはならないな。

光写真館・・・・・

神「今日からここが、俺の住む家ですか？」

士「まあ、そんなとこだな。」

ともと影楼＝神の質問に、そつなく答え、冷静に回答を済ませている。

そんな、士を見て、翔太郎はやつぱり「そつけない」とおもい、ため息をつくのであった。

翔太郎はいつも士が座っている席にすわり、士はずつと立つている。神は写真館の中を見て周り、フィリップいつもと変わらず、本を読みふけっていた。しかし、興味があるもののときだけは、ホワイトボード一面にその情報を書き写す。

ただ、それだけのことだ。

翔太郎「そういえば、神の事より、城戸真司君の事はどうするんだよ！――総司のときみたいにいっぱい月日がかかるかもしれないからな。」

フィリップは、神に仮面ライダーの事を説明し、その主人公の事についても説明した。でも神にはイマイチ分かっていないようで、フィリップは自分が呼んでいた「仮面ライダー事典」というのを貸して読ませた。

士「こんどは、お前が行けよ。私立探偵なんだから情報でもくれてやればいいだろ！――！」

士がキレたのが、久しぶりの事だったのだが、翔太郎たちは全く気にしないのだ。

フィリップは、神に仮面ライダーの事について、熱く教え、翔太郎はいつもどおり、タイプライターで、今日の事について書いていた。

翔太郎「士！？何か言ったか？フィリップ何か言ったか？」

フィリップ「僕は何も言つていない。士じゃないのかい？？」

と2人で会話を勝手に進めているという事実。翔太郎たちは全く士の事を気にせずに、会話を進めてしまっているため、士の怒りを余計を買ってしまう。

士「俺…出でへる…！」

ああ～～と声が出来たくなる。神・・・だけ一応我慢する。

士は写真館から小高い丘の上にある、公園の樹齢1000年は超えているであろう桜の木にのぼり、ゆっくりと昼寝体制に入る。

写真館・・・・・・・・

翔太郎「まあ、士は放つておいたら、必ず帰つてくるはずだ。だから神は次の世界に行く準備をしたほうがいい。」

と神の不安をなくそつと頑張る翔太郎。神にはその効果は効いているのか分からるのは本当だけだ・・・

フィリップ「神は、今日は自分の家へ帰れ！翔太郎の言ったとおりにしたほうがいい。急に出発する事もあるからな。」

フィリップの言葉を聴き、神は一旦、家に帰つてから、2時間後ぐらには戻ってきた。

神は、衣服や食料などを持つてきた。だけど、食料は写真館にいくらでもあった。

そんなことも全くもつて知らない神・・・だから、あたりまえのことだけね！君は本当の事をしだけだ・・・

まあ、そういうことはおいといてほしいといだな・・・

翔太郎「神！帰つてきたのか！それならそつと行つてくれれば準

備をしていたのにな……」

フイリップ「士はぜひせ戻つてくるー」

と凄い宣言しているフイリップなのであつた。翔太郎は、フイリップの話を聞いて、納得しているのか、頷いている。

翔太郎「士に連絡してみるか？たぶん、あの丘にいるんじゃないのか？あいつのことだからな！」

翔太郎は士のいる所を的確に当ててしまった。そのこと士といふ  
と??.?.?.?.?.?.?

↖ハクショーン!—!—↗

と大胆にも、凄く大きいしゃみをしてしまつた士。誰かに噂をされたとは全く思つていないうらしい。！

士「風邪でもひいたかな??いやちがうな??」

とこんな風に迷つてゐる。大人氣ないといつ言葉は似合わないが、  
やうこうしかないとと思つ。

## 城戸真司と対面！？

龍騎の世界の仲間をチョイス

龍騎の世界にはいっぱい仮面ライダーがいることは存知だらう。しかし、全員優しい心を持つたものとは限らない。それに連れて行けない。

龍騎とナイトは完全に決定されているが、そのほかどんな奴がいるのかも知らないのだ。士以外はな

分かっているわけが無い。わかっていてればそれはとてもいい事なのだが、神にも協力してもらわなくてはならないな。

光写真館・・・・・

神「今日からここが、俺の住む家ですか？」

士「まあ、そんなどこだな。」

ともと影楼＝神の質問に、そつけなく答え、冷静に回答を済ませている。

そんな、士を見て、翔太郎はやっぱり「そつけない」とおもい、ため息をつくのであった。

翔太郎はいつも士が座っている席にすわり、士はすっと立つている。神は写真館の中を見て周り、フィリップいつもと変わらず、本を読みふけっていた。しかし、興味があるもののときだけは、ホワ

イトボード一面にその情報を書き写す。

ただ、それだけのことだ。

翔太郎「そういえば、神の事より、城戸真司君の事はどうするんだよ！……総司のときみたいにいっぱい月日がかかってもしないからな。」

フィリップは、神に仮面ライダーの事を説明し、その主人公の事についても説明した。でも神にはイマイチ分かっていないようなので、フィリップは自分が呼んでいた「仮面ライダー事典」というのを貸して読ませた。

士「こんどは、お前が行けよ。私立探偵なんだから情報でもくれてやればいいだろ！！！！？」

士がキレたのが、久しぶりの事だったのだが、翔太郎たちは全く気にしないのだ。翔太郎たちは単なる喧嘩とだと思っているらしい。フィリップは、神に仮面ライダーの事について、熱く教え、翔太郎はいつもどおり、タイプライターで、今日の事について書いていた。

翔太郎「士！？何か言ったか？フィリップ何か言ったか？」

フィリップ「僕は何も言つていない。士じゃないのかい？？」

と2人で会話を勝手に進めているという事実。翔太郎たちは全く士の事を気にせずに、会話を進めてしまっているため、士の怒りを余計を買ってしまう。

士「俺!出でくる!……」

ああ～～と声が出そうになる。神・・・だけの一応我慢する。

士は写真館から小高い丘の上にある、公園の樹齢1000年を超えているであろう桜の木にのぼり、ゆっくりと昼寝体制に入る。

写真館・・・・・・・・・・・・

翔太郎「まあ、士は放つておいたら、必ず帰つてくるはずだ。だから神は次の世界に行く準備をしたほうがいい。」

と神の不安をなくそつと頑張る翔太郎。神にはその効果は効いているのか分からるのは本当だけ・・・

フィリップ「神は、今日は自分の家へ帰れ!翔太郎の言つたとおりにしたほうがいい。急に出発する事もあるからな。」

フィリップの言葉を聴き、神は一旦、家に帰つてから、2時間後ぐらいには戻つてきた。

神は、衣服や食料などを持つてきた。だけど、食料は写真館にいくらでもあった。

そんなことも全くもつて知らない神・・・だから、あたりまえのことだけね!君は本当の事をしただけだ・・・

一方、士はといつとー?ー?ー?ー?・・・

士は公園から、そのまままで、城戸真司がいる、編集社に行つた。

なぜかは誰にも分からぬ。それは、士しか知らない事なのだからなーー！

そんなことは、全く持つてぢつでもないことなのだが・・・・・？

編集社で士はすうと城戸と話をしていた。

なんのはなしかといつと、本題に戻り「ショッカーが日本を攻めてくる」というふうに、少々大胆な嘘をつき、城戸を本気で仲間に入れようといつ作戦だ

そんなことも知らない翔太郎たちはいま、家にのんびりしているに違いないと思う士。

士「で、お前は仲間になるのか！？ならないのか！？ぢつちんだーー！」

とさらに城戸につめより、さらに追求をする。それ城戸は答へようとしているようだ。

士「まあ、俺たちが全員倒したとしても、お前には罪悪感が残るだけだらうな。」

罪悪感・・・おれはこのままいいのか！？本当に助けなくもいいのだらうか・・・

と城戸はこんな風に迷つてゐるらしいのだ。

士「まあ、どうでもいいが、答えは今度聞きたく来るそれまでには答えを出しておけ。」

といい、士は足早に編集社を去つていったのであった。

写真館・・・・・

そして、この日は士は帰つてこなかつた。翔太郎は朝起きたと単に士を探しに行つたのだから、結構心配はしていたのだろう。

士は翔太郎に見つからず、勝手に写真館に帰つてきた。フィリップは何も言わず、神はフイリップの助手みたいに働いている。

そして翔太郎が帰つてくるとー？

翔太郎「で！？城戸」と話をしたんだろうなー？

士「当たり前に決まっているだろ？」

ちょっと日本語がおかしい気がするんだけどね・・・！？どうでもいいことだがな。

翔太郎は少し安心した様子で言つたようだ。

この「うう、信頼関係が不安定だつたが、これからドンドン信頼関係を元に戻していけば言いという、士の思いだ。」

翔太郎「まあ、返事はどうせもらえなかつたんだろうけどな。」

なぜ、それが分かつたのか、これが私立探偵！？いや親友つてい  
うものななのか！？いや字が違つかもしれない。神友なのか！？  
どうでもいいことだがな。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4549q/>

仮面ライダーW × ディケイド ~平成オールライダーv s 大ショッカー  
2011年11月17日17時02分発行